北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	日本文化と東アジアA	科目コード	1128	単位数	3
担当者名	李　炯直	開講セメスター	第1セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BPe105	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

グローバル化が進む現在、現代韓国の社会慣習や文化を中心に学び、日本との違いや類似点、関係性を広い視点から理解し、豊かな人間形成に資する幅広い教養と異文化理解力を身につけること。

到達目標

?韓国の多様な文化の特徴を学び、固定観念にとらわれずに韓国文化を相対的に考察する姿勢を身につけることを目標とする。
②東アジア諸国と区別される日本文化に関するテーマを自ら設定し、文献調査・資料分析を行う力を身につける。
③英語で書かれた講義レジュメを読むことで、英語の読解力を養うことも本講義の目標の一つである。

授業内容

1週目 オリエンテーション及び韓国の気候や風土について
2週目 韓国の教育や言語文化について
3週目 韓国の地理や政治について
4週目 韓国の飲食文化について
5週目 韓国の伝統的遊び文化について
6週目 韓国のエンターテインメントについて
7週目 韓国映画で映される韓国の歴史や社会について
8週目 現代韓国社会や文化を映す映画視聴及び感想文作成
9週目 韓国における日本映画の影響について
10週目 調査発表及び議論①：東アジア諸国と異なる日本の飲食文化について
11週目 調査発表及び議論②：東アジア諸国と異なる日本の娯楽・エンターテインメントについて
12週目 調査発表及び議論③：東アジア諸国と異なる日本の遊び文化や観光文化について
13週目 調査発表及び議論④：東アジア諸国と異なる日本の教育やスポーツについて
14週目 調査発表及び議論⑤：東アジア諸国と異なる日本の社会的慣習や家族文化について
15週目 調査発表内容のまとめとフィードバック及び期末試験
16週目 講義全体に対するフィードバック（テスト返却や講評等）の実施。但し、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、補講授業を行う（※１６週目の開講は任意とする）。

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：本学のEラーニングシステム(manaba)もしくはGoogle Classroomを利用し、毎週事前に提示される予習課題の作成や次回の講義資料を読むこと。（必要な予習時間：90分以上）
復習：毎回の講義内容をまとめたノートを作成し、期末試験の際に活用すること。（必要な復習時間：90分以上）

成績評価の方法・基準

期末試験：50%、
調査発表：25%、
調査発表に対する報告書：15%
映画感想文：10%

履修上の留意点

授業中、事前許可なしでの通話、写真撮影eなどの携帯電話使用は厳禁。
2回の「遅刻」もしくは「早退」は1回の「欠席」取扱いとする。
成績評価は、出席率3分の2以上の学生を対象とする。

課題に対するフィードバックの方法

採点を行い、点数とコメントを本学のEラーニングシステム（manaba）もしくはGoogle Classroomを通じてフィードバックを行う。

テキスト

特になし。
必要な資料は本学のEラーニングシステム(manaba)もしくはGoogle Classroomを利用し配布する。

参考書

延 恩株（2021）『韓国ことばと文化』（論創社）2,200円

更新日付

2026/01/10 01:39